

高知県南国市における津波堆積物調査

Preliminary report on paleotsunami study in Nankoku City, Kochi Prefecture, western Japan

谷川 晃一郎^{1*}; 穴倉 正展¹; 藤原 治¹; 行谷 佑一¹; 松本 弾¹

TANIGAWA, Koichiro^{1*}; SHISHIKURA, Masanobu¹; FUJIWARA, Osamu¹; NAMEGAYA, Yuichi¹;

MATSUMOTO, Dan¹

¹ 産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門

¹ Geological Survey of Japan, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST)

高知県沿岸部は南海トラフで発生する津波に繰り返し襲われてきた。南海トラフの海溝型巨大地震の履歴は主に古文書などから明らかにされており、西暦 684 年の白鳳地震まで遡ることができる。しかし、江戸時代以前の歴史記録には詳細な記述が少なく、それらから地震の規模や破壊領域を推測することは難しい。このような背景から高知県沿岸において津波堆積物調査を行った。

調査は文科省の南海トラフ広域地震防災研究プロジェクトの津波履歴調査として、2013 年と 2014 年に東洋町、南国市、四万十町、黒潮町の海岸低地で実施した。本発表では南国市の調査結果を紹介する。掘削は機械ボーリングとジオスライサーを用いて行った。南国市では標高 3m 以下の海岸低地の 9 地点で深さ最大 9m まで掘削を行い、鬼界アカホヤ火山灰（約 7200 年前）以降の堆積物を採取した。これらの堆積物は主に粘土～シルトおよび泥炭層からなり、数枚のイベント砂層を挟在する。珪藻化石分析や年代測定などを進め、会場ではその結果を示す。

キーワード: 津波堆積物, 珪藻化石分析, 南海トラフ, 南国市, 高知県

Keywords: tsunami deposit, fossil diatom analysis, Nankai Trough, Nankoku City, Kochi Prefecture